

データ連載

美白スキンケア市場、微減の2109億円に

企業別では資生堂がトップ

総合企画センター大阪(大阪市西区)が実施した調査によると、13年度の美白スキンケア市場は、前年度比0.5%減少の2109億円と見込まれる。

12年度は2120億円を記録したが、1割強を占めたカネボウ化粧品が白班問題で大きく売り上げを落とした。し

かし、競合企業の多くは、白班問題が発覚する以前の昨年上期から下期にかけて好調な推移を続け、全体のとしては0.5%の減少と予想された。

14年度の動向としては、カネボウ化粧品の落ち込みをどこまでカバーできるかが注目される。企業別シェア(12年度)では、資生堂が

365億円で前年に続きトップに。13年度は主力製品の売り上げが伸長したため、1.1%増の369億円となる見通しだ。

2位カネボウ化粧品は223億円を記録したが、白班問題の影響で13年度は4割近く縮小するとみられる。3位コーセーは218

億円を記録。「雪肌精」などが好調、13年度は7.3%増の234億円と予想される。

また、ジョンズ・ホプキンス病院(メリーランド州)が

1075億円(2.3%増)。

「弊社では10年ほど前からアメリカ人参について調べてきました。結論として Wisconsin 州産のアメリカ人参が他国産



ジョンズ・ホプキンス病院

れるメイヨー・クリニック(ミネソタ州ローチェスター市)では Wisconsin 州産アメリカ人参(協会が提供)を用いた臨床試験が

秋から臨床試験(フェーズⅢ)が始まり、昨年夏には、「がん治療を受けている患者の倦怠感・気力低下の軽減に効果」という正式結果が同学会から発表された。これは、米・国立がん研究所に収載されているアメリカ人参最大の治験結果である。

高価格帯の伸びは、徐々に景気回復の兆しが見えてきたこと、外資系ブランドを中心として通販チャネルやセミセルフ型のマルチブランドストアへの参入が相次いだこと、若年層へのアプローチが要因に挙げられた。

と比べて最も良いものだと考えており、その見識について Wisconsin 協会からの評価されています。従来は日本の市場でアメリカ人参を扱う普及させていくが弊社の第一のテーマでしたが、今後は科学的にどのような機能が

あるのかを、商品化においてもっと落とし込んでいく必要があります。従来の機能性ニンジンの製品はどこか高級なイメージが強かったのですが、弊社の手掛けていくアメリカ人参の製品については消費者にとってもっと身近に感じてもらえるよ

うなものにしていくつもりです」と力を込めた。呉社長も言う「科学的な機能」については、同社が注力する分野だ。

Wisconsin 協会では、科学的なデータ取得に積極的に取り組んでおり、最も優れた病院として全米で知ら

2006年から行われた「フェーズⅡ」として一人当たり2000g/日のアメリカ人参を摂取してもらい、07年6月の米国がん治療学会年次総会では投与を受けたがん患者の体力などの有意性について発表された。さらに07年

そして筋肉損傷抑制(筋損傷ケア)も期待できることから、陸上スポーツ選手に対するモニター試験も行っている。一方では消費者にとって身近に親しんでもらうために製品企画・OEM製造にも工夫を凝らす。

錠剤・カプセルだけでなく、お茶や飴など剤形は幅広く企画できる。加えて農業問題を抱えていない Wisconsin 州産であるという認定マークも製品に貼付することができると。

日本の消費者のニーズにどう答えるか、同社によるアメリカ人参事業の展開に期待がかかる。

2006年から行われた「フェーズⅡ」として一人当たり2000g/日のアメリカ人参を摂取してもらい、07年6月の米国がん治療学会年次総会では投与を受けたがん患者の体力などの有意性について発表された。さらに07年

12月15日号ではアメリカ人参 Wisconsin 協会の実際の生産の現場について紹介した。最終の本欄では日本でアメリカ人参を用いた製品の原料販売および OEM 製造を行っている皇漢薬品研究所(※直輸入窓口 東京都千代田区、03-5861-3843)が今後目指す展開について紹介する。(編集部・花里)



世界が認める本場のアメリカ・ニンジンを追う

4



皇漢薬品研究所の呉社長

ド州ボルチモア市)ではエイズ患者へのサポートとしての役割となるか研究も行われている。

アメリカニンジンと言えは、他の機能性人参と異なり、継続的に摂取しても副作用で血圧を上げてしまう恐れがない。涼性で鎮静作用がある。これらは他のニンジンとの差別化としても重要な特性となる。

そして筋肉損傷抑制(筋損傷ケア)も期待できることから、陸上スポーツ選手に対するモニター試験も行っている。

一方では消費者にとって身近に親しんでもらうために製品企画・OEM製造にも工夫を凝らす。

錠剤・カプセルだけでなく、お茶や飴など剤形は幅広く企画できる。加えて農業問題を抱えていない Wisconsin 州産であるという認定マークも製品に貼付することができると。